

R7 井伊谷小学校 学校評価

取組内容	取組目上段：保護者・教員下段：児童	肯定的な割合%	児童				肯定的な割合%	保護者				肯定的な割合%	教職員				継続的評価 A (80%以上)・B・C (50%以下)	今年度の取組	成果と課題	学校運営協議会委員の意見
			そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
			82.9	82.9	82.9	82.9		82.9	82.9	82.9	82.9		82.9	82.9	82.9	82.9				
自ら学びを進め、共に深め合う子	1	88.3	42.8	45.5	9.6	2.1	77.4	23.8	53.6	15.9	6.6	82.9	17.4	69.6	13.3	0.0	B	個々に応じた学び方（個別最適な学び）や協働的な学びを充実、ICTの活用によって学びの自立を支援してきました。	肯定的な意見が多い一方で、約1割の子どもは、学習への意欲が十分でない。学習のめあてや課題を明確にしておくだけでなく、「何を学ぶか」「どう学ぶか」を自分で決め、「楽しい」「やってみよう」と感じられるような、学習活動が必要だと考えられる。	学ぶことが「楽しみ」になるような教育活動をしてほしい。
	2	86.4	56.9	29.5	10.8	2.7	96.7	54.3	42.4	2.0	1.3	91.3	56.5	34.8	8.7	0.0	A	学校では、教科の学習内容に応じて、外部の講師の先生をお呼びして学習を深めてきました。	肯定的な意見が多く、概ね効果が出ていると考えられる。児童の評価が保護者や教員より低いため、学ぶ意義や学んだことの価値づけを事前指導、事後指導によって行っていきたい。今後どう広げていくか、検討していくのがよいと考えられる。	CSを活用しつつ、さまざまな人と関わり、学びの場の充実ができればいい。
	3	87.9	55.4	32.5	9.9	2.1	92.7	43.7	49.0	6.6	0.7	91.3	34.8	56.5	8.7	0.0	A	学校では授業の中で、個人用のタブレットを利用して、意見交換や情報共有、調べ学習、プレゼンテーション作成などを行っています。また、朝の活動の中に「アイタイム」を行い、タイピングの練習や機器の活用、情報モラルについての学習をしています。	タブレットの使用頻度が高く、一定数の評価が得られている。今後タブレットは活用されていますが、「ただ使っているだけ」にならないよう、自主的な学習の深まりに繋がっていくよう支援が必要。機器の使い方だけでなく、情報を整理・分析するスキルなど、効果的な活用法を職員でどのように共有していくかも今後の課題である。	ICTを家庭学習にも生かしていくという部分について、どう評価していくか考えてほしい。
	4	86.2	41.9	44.3	12.0	1.8	79.5	21.2	58.3	20.5	0.0	65.2	8.7	56.5	34.8	0.0	B	朝の活動の中で「トークタイム」を設定し、話し合いをすることを日常化できるよう取り組んでいます。また、授業の中で、ペアやグループ、クラス全体で意見交換をする場を意図的に設定しています。友達との考えの良さや、自分との相違点を認めながら、自分の考えを深める学習を積み重ねています。	児童や保護者と教員間で最も差が見られる。話し合いの機会を多く設定したこと、児童の協働学習における学びの広がりは見られるものの、「全員が発言できていない」「議論が深まっていない」という現状が考えられる。多様な考えを受け入れつつ、学年に応じて「伝える力」を伸ばす必要がある。	ちがいを受け止めるという考えが子どもたちに伝わってきていることが分かった。
ちがいを認め、生か合う子	5	91.0	51.2	39.8	7.5	1.5	91.3	23.8	67.5	8.6	0.0	73.9	17.4	56.5	26.1	0.0	B	子どもたちが安心して発言できるよう、心理的安全性を確保するために、学級活動などで話し合いの機会を多くもちました。また、ペア学習でレクリエーションをするなど、他学年と交流できる機会も設けました。	概ね高い評価。教室の外、学校外でも実践できるよう、指導を継続することが必要であり、多様性を認め合う心を、学校全体で育み続けることが今後大切である。	異学年集団との関わりは、「きらきらかード」を上手に使い、互いを認め合う場になればいい。
	6	64.4	31.6	32.8	24.4	11.1	92.7	37.1	55.6	6.6	0.7	91	26.1	65.2	8.7	0.0	A	友達とのよさや頑張りやキラキラカードに書いて渡す取り組みを続けています。また、帰りの会や昼の放送時にも友達とのよさを紹介しています。	肯定的な評価が高く、人間関係を築く力は育っています。この力を自己肯定感の向上に繋げるため、「良いところを具体的に伝える」指導を強化し、すべての児童が認められる体験を増やすことが今後の課題。	褒める場所や場面の確保ができるように進めてほしい。
	7	85.5	52.7	32.8	10.5	3.9	79.5	21.9	57.6	19.9	0.7	87	17.4	69.6	13.0	0.0	B	将来の夢を提示し、意識を高めるとともに、一つ一つの活動にめあてをもつて取り組ませ、振り返りをして次の活動につなげる取り組みを積み重ねています。また、キャリアパスポートに学習したことや活動の振り返りを足跡として残しています。	児童、教員と比べ保護者の評価が低い。学校としては引き続き、具体的な目標の持ち方や、目標達成に向けた計画の立て方を学ぶ機会を設け、すべての児童が目的意識を持って学校生活を送れるように支援していく必要がある。そして、キャリアパスポート等で、児童の思いが家庭に伝わるような手立てが必要だと考えられる。	めあてをもって取り組むという機会の増加をしてほしい。
しなやかに受け止め、やり抜く子の育成	8	86.5	47.9	38.6	10.2	4.2	69.5	11.9	57.6	25.8	4.6	56.5	8.7	47.8	39.1	4.3	B	学校では、行事の前に個々に目標を設定し、終了後は振り返りを行い、「いいかおのり」で取り組んだりして、レジリエンス教育（つらい出来事やストレスがあっても、心や気持ちを立て直して回復する力。倒れてもまた起き上がる力のことやかさ）を推進してきました。	教職員の評価が低く、差が見られる。困難に直面したときに、諦めずに粘り強く取り組む力を、さらに伸ばすための手立てを検討する必要がある。そして「粘り強く取り組む姿勢」とはどんな姿なのか、職員で共有することも大切。	自分の良いところを見つける場やめあてをもって取り組むという機会の増加をしてほしい。
	9	84.0	51.2	32.8	11.7	4.2	80.8	22.5	58.3	17.9	1.3	65.2	13.0	52.2	34.8	0.0	B	今年度は、外部講師の先生に来ていただいてお話を聞く機会を設けたり、「いいかおのり」で取り組んだりして、レジリエンス教育（つらい出来事やストレスがあっても、心や気持ちを立て直して回復する力。倒れてもまた起き上がる力のことやかさ）を推進してきました。	気持ちの切り替え（レジリエンス）に関する評価が児童に比べ、保護者、職員が低い。失敗やストレスを乗り越え、前向きになれるよう、スモールステップでの活動の機会を設定したり、個々に応じた成長を可視化するような支援が求められる。また、引き続き、「いい顔の日」等での心の健康をサポートする指導や、教員による丁寧なカウンセリングの充実が課題。	自分の良さを認める時間の確保や自分で自信をもって取り組んでいくことができる機会を設けてほしい。
	#	80.7	56.3	24.4	12.0	7.2	84.7	50.3	34.4	9.3	6.0	82.6	30.4	52.2	17.4	0.0	A	今年度は月曜日と金曜日の屋休みの時間を増やし、外遊びを長くできるようにしました。また、9月にプールを行うことで、暑い日でも運動できる時間を確保しました。熱中症対策として、校内に冷水器を設置したり、昇降口前にはミストの設置を行いました。	児童、保護者、職員共に8割を超える肯定率である。一定数の児童は積極的に外遊びを行っているものの、一部、運動の機会が不足していることが考えられる。体力向上に繋がる活動を計画的に実施することが課題。	子どもたちの運動量の確保や目標をもって取り組むための支援ができるといい。
	#	92.1	60.5	31.6	6.3	1.5	96.1	51.7	44.4	4.0	0.0	56.5	8.7	47.8	43.5	0.0	B	児童や保護者の肯定率が高いのは、防災や防犯、交通事故といった場面における安全面には気を付けているという表れであると考えられる。それに対して、職員の評価が低いのは、「安全面」ということで、休み時間、不注意によるけがやボールの使い方、SNSの使い方など、日常生活に関わる部分の評価も加味されていることが考えられる。登下校時や学校施設内の危険箇所の継続的な点検と、地域の方々との見守り等、引き続き行っていくことが必要。	児童や保護者の肯定率が高いのは、防災や防犯、交通事故といった場面における安全面には気を付けているという表れであると考えられる。それに対して、職員の評価が低いのは、「安全面」ということで、休み時間、不注意によるけがやボールの使い方、SNSの使い方など、日常生活に関わる部分の評価も加味されていることが考えられる。登下校時や学校施設内の危険箇所の継続的な点検と、地域の方々との見守り等、引き続き行っていくことが必要。	危機管理、安全面に対する意識を引き続き高めたい。
挨拶ができる子の育成	#	85.0	42.8	42.2	10.8	4.2	70.2	24.5	45.7	25.2	4.6	30.4	4.3	26.1	56.5	13.0	C	児童の肯定率は85パーセントと高く、保護者の肯定率や職員の肯定率が低いことから、仲の良い友達や身近な人に対する挨拶はできているが、地域の人や学級の児童等広く挨拶ができていないということが考えられる。学校内だけでなく、地域の中でも進んで挨拶できる子どもを育てるため、学校と地域での指導の連携（「いつでも、どこでも」を実践させる）が課題。	児童の肯定率は85パーセントと高く、保護者の肯定率や職員の肯定率が低いことから、仲の良い友達や身近な人に対する挨拶はできているが、地域の人や学級の児童等広く挨拶ができていないということが考えられる。学校内だけでなく、地域の中でも進んで挨拶できる子どもを育てるため、学校と地域での指導の連携（「いつでも、どこでも」を実践させる）が課題。	あいさつはできる子はよくできている。先生たちは子どもたちに積極的に関わってほしい。
	#	82.5	48.5	34.0	10.5	6.9	92.7	49.0	43.7	5.3	2.0	100.0	26.1	73.9	0.0	0.0	A	学級での話し合い活動の充実や心理的安全性の確保に努めたり、諸行事で、個々が活躍できるような場面設定や目標設定を行いました。また、振り返りによる価値付けを行いました。また、いじめはいじめのことだという意識は、児童・保護者・教員に浸透されています。いい顔の日の取り組みを2か月に1回実施していたり、臨時校内外いじめ対策委員会では、問題が起こるたびに開催、校内いじめ対策委員会定例会は、月に1回開催したりしました。	保護者や職員の肯定率が9割を超えるものの、児童の割合が8割程度と最も低い。すべての子どもにとって「学校が楽しい場所」となるよう、授業や行事、特別活動などを通して学校生活全体で支援をしていくことが重要。今後とも個々に応じた支援していく。	多くの児童が楽しく通っているという結果はよく見えるが、一方で「楽しくない」と思っている児童もいるということ。その児童たちの実態を把握すると共に、細やかな支援をしていかなければいけない。
命を大切にす子の育成	#	97.0	77.7	19.3	2.1	0.9	98.0	62.9	35.1	2.0	0.0	100.0	73.9	26.1	0.0	0.0	A	命の大切さについて継続して指導すると共に、学校のいじめ防止基本方針については、4月11日中評しました。また、4月PTA理事会・PTA総会で保護者へ説明し、6月には学校運営協議会で説明しました。児童には、6月のいじめをなくそう集いで説明しました。	命の大切さやいじめはしてはいけないことに対する指導は概ねできている。今後とも実態に合わせて、指導内容の見直し、更新していくことが課題。また、校内いじめ対策委員会、学校いじめ防止基本方針の見直しを検討する。また、事例検討を行い、対応力を高める。	どんな方法でどのように取り組んでいくのかということも今後考えて取り組んでほしい。褒める場の確保や他者や自分のいいところを見つける活動をしてほしい。
	#	81.1	25.8	6.4	7	3	81.1	9.5	5.3	3	0	81.1	1.7	6	0	0	A	命の大切さやいじめはしてはいけないことに対する指導は概ねできている。今後とも実態に合わせて、指導内容の見直し、更新していくことが課題。また、校内いじめ対策委員会、学校いじめ防止基本方針の見直しを検討する。また、事例検討を行い、対応力を高める。	命の大切さやいじめはしてはいけないことに対する指導は概ねできている。今後とも実態に合わせて、指導内容の見直し、更新していくことが課題。また、校内いじめ対策委員会、学校いじめ防止基本方針の見直しを検討する。また、事例検討を行い、対応力を高める。	命の大切さやいじめはしてはいけないことに対する指導は概ねできている。今後とも実態に合わせて、指導内容の見直し、更新していくことが課題。また、校内いじめ対策委員会、学校いじめ防止基本方針の見直しを検討する。また、事例検討を行い、対応力を高める。